

第2学年生活科学学習指導案

日時 令和6年11月7日(木)

第5校時

対象 第2学年1・2組みどり学級

37名

授業者 久地浦 玲子

会場 2年2組教室

1 単元名 えがおのひみつ たんけんたい(教育出版)

2 単元の目標

地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関りや、公共物のよさや働きを捉えたり、相手のことを想像して伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わるよさや楽しさが分かり、地域に親しみや愛着をもち、すすんで触れ合い交流することや、適切に接したり、安全に生活したりすることができるようにする。

3 題材の評価規準

知識・技能	地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、身近な人々と関わるよさや楽しさ、適切な接し方が分かっている。
思考・判断・表現	地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域の人々と自分たちの生活との関わりや、公共物のよさや働きを捉えたり、相手に応じて伝えたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	地域の多様な場所や人々に関わる活動や、身近な人々と伝え合う活動を通して、地域に親しみや愛着をもち、すすんで触れ合い交流することや、適切に接したり安全に生活したりしようとしている。

4 指導観

(1) 単元観

本単元は学習指導要領 生活科の内容(3)「地域に関わる活動」(4)「公共物や公共施設を利用する活動」に基づいて設定した。

小学校学習指導要領 生活科編 第3章 生活科の内容

- (3) 地域に関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。
- (4) 公共物や公共施設を利用する活動を通して、それらのよさを感じたり働きを捉えたりすることができ、身の回りにはみんなで使うものがあることやそれらを支えている人々がいることなどが分かるとともに、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用しようとする。

(2) 児童観

本学年の児童は、登下校の通学路などで、地域の人々やお店などを目にしている。9月初旬に行った、「まちが大すきたんけんたい」の学習で、身の回りの地域を全員で巡る町探検を行い、今まで知らなかった場所を知ることができた。さらに、アンケートでは、ほとんどの児童が「また行きたい」と回答しており、意欲がさらに高まっている。本単元では、自分たちの地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所との関わりを深め、それらに愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することや安全に生活することができるようにしたい。

また、日頃から自分の考えや意見を積極的に発表したいと思っている児童が多い。本単元を通して、児童が主体となって話し合ったり考えたりすることができるようにしたい。そのために、付箋や短冊、ICTを活用し、それを分類・整理し、伝え合う活動を通して、伝えたいことが相手に伝わる良さがわかり、意欲をもって友達と伝え合うことができるようにする。

(3) 教材観

児童にとっての地域とは、生活の舞台であるとともに、学びの対象であり、生活や学びを支えてくれる人たちが生活する身近な環境そのものである。その中で、児童が地域の人々や場所のよさに気付く、それらを大切にしたり積極的に関わったりできるようになることによって、生きて働く力を育成することができる。

まち探検は、地域や社会との関わりをもち、地域の人への愛着と信頼を醸成することのできる単元である。そのためには、自分の生活が多くの人たちによって支えられていることを実感できるように、具体的な活動や体験を大事にしたい。例えば、インタビューをさせてもらったり、お店の仕事を体験させてもらったりすることなどが考えられる。そうすることで、働いている人たちの人柄や仕事に対する思いや生き方に触れ、地域のことを更に好きになっていくことを期待している。

5 年間指導計画における位置付け

第1学年 生活 わくわくどきどきしょうがっこう（学校と生活）

第1学年 生活 かぞくにこにこ大作戦（家庭と生活）

第2学年 生活 まちが大すきたんけんたい（地域と生活）（公共物や公共施設の利用）

第2学年 国語 メモをとるとき、こんなもの見つけたよ

第2学年 生活 えがおのひみつ たんけんたい（地域と生活）（公共物や公共施設の利用）

第3学年 社会 私たちの地域や市

6 単元の指導計画と評価計画（全28時間）

時数	小単元	目標	学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	単元の導入	これまでのまち探検で、訪ねた場所などを思い起こし、地域に親しみがある場所が増えたことに気づき、地域や人々に関わることへの期待をもつことができるようにする。	■前回のまち探検の記録や作品ももとに、印象に残っていることや、自分の生活や関わり方が変わったところを考え、これからの学習のイメージを持つ（わくわくスイッチ/わくわくシート）。 ○楽しかったこと、疑問に思うこと、新たに発見した場所などを話し合う。 ○再び行ってみたいところや、会ってみたい人などを話し合う。	地域に親しみがある場所が増えたことに気付いている。 【発】 【行】	これまでのまち探検を思い起こして、より関わりを深める方法を話し合っている。 【発】 【行】	地域や人々に関わることへの期待をもって、話し合おうとしている。 【発】 【行】
2・3・4	もっと知りたいことを話そう	知りたいことやしてみたいことを分けたり、適切な行動を予想したりしながら計画を立て、訪問や連絡、依頼を適切に行い、期待をもって、繰り返し関わるようにする。	○行きたい場所や目的、約束などについて話し合い、探検の計画を立てる。 ○行きたい場所をもとにグループをつくり、お店の人にインタビューをして尋ねてみたいことを考え、整理し、笑顔で働く理由を予想する。 ○話し合ったことや自分の考えについて計画カードに記録する。 ○探検する場所について、行く日やお願いしたいことを適切な方法で連絡する。	探検に行くことについて、連絡や依頼を適切に行っている。 【発】 【作】	もっと知りたいことやしてみたいことを分けたり、ふさわしい行動を予想したりしながら、計画を立てたり約束を決めたりしている。 【発】 【作】	地域の場所や人々に関わることに関心や期待をもって、繰り返し関わる計画を立てようとしている。 【発】 【作】

5 1 4	えがお の ひみ つを さぐろ う	仕事をしている様子を丁寧に見たり、適切な言葉遣いで話を聞いたたりし、これまで見ていなかった仕事やそれをしている人々の思いに気が付き、関心を高めることができるようにする。 仕事の一部を体験する学習を通して、仕事の楽しさや難しさ、場に応じた適切な言葉遣いや行動に気が付き、地域の人々の思いに心を寄せ、すすんで取り組むことができるようにする。	○お店を探検したりインタビューしたりするときに気をつけることを確認する。 ○仕事の仕方や手順、種類などについて観察したり聞き取ったりする。 ○お店や公共施設で、普段見ることのできないバックヤードの様子や、開店前や閉店後の仕事などについて教えてもらう。 ○気付いたり教えてもらったりしたことを学習者用端末で記録したり、カードに整理してまとめる。 ○仕事を体験させてもらう時に気を付けることを話し合う。 ○仕事の様子を見せてもらう。 ○仕事の内容を見たり聞いたりする中で、自分にもできそうなことを教えてもらい、やってみる。 ○やってみて感じたことや、考えたことをカードなどに記録する。	・これまで目に見えていなかった仕事や、仕事をしている人々の思いに気付いている。 ・インタビューの際、その場に応じた言葉遣いや適切な行動をしている。 ・仕事の楽しさや難しさに気付いている。 ・仕事をする際、その場に応じた言葉遣いや適切な行動をしている。 【発】 【作】	仕事をしている人々の思いや工夫を予想しながら、関わっている。 ・適切な言葉遣いや行動を意識しながら、仕事に取り組んでいく。 【発】 【作】	仕事をしている人々の様子を丁寧に見たり、話を聞いたたりしようとしている。 ・仕事を体験をしながら、地域の人々の思いに心を寄せ、すすんで取り組もうとしている。 【発】 【行】
1 5	何を か んじた かな	自分が体験したことをまとめたり、友達と伝え合ったりして、仕事をしている人の思いや工夫に気が付き、人々への親しみや愛着をもち、それらのよさを大切にできるようにする。	○仕事の大変さや楽しさ、仕事をしている人たちの思いなどについて、グループの友達と自分の考えを伝え合う。 ○働く人たちの笑顔の秘密について考えたり予想を立て直したりする。 ■カードや学習者用端末などで学習を振り返り、次の学習への見通しを持つ。	それぞれの仕事には、さまざまな思いや工夫があることに気付いている。	友達の体験や感想と比較しながら、自分の体験をまとめたり、友達と伝え合ったりしている。	仕事をしている人々の姿や自分が体験したことを思い起こして、人々への親しみや愛着をもち、それらのよさを大切にしようとしている。

16 ～ 18 (本時)	体けん をつた え合おう	探検場所で体験したことを自分たちの選んだ方法で表現し、伝えたいことが相手に伝わるよさがわかり、意欲をもって友達と伝え合うことができるようにする。	○体験してわかったことをグループの友達と情報交換する。 ○他のグループの友達に伝えるための方法について話し合う。 ○絵本や、クイズ、絵地図、新聞などの方法で、探検してわかったことや、体験して多様な感じたことや考えたことなどを、友達と協力してまとめる。 ○体験発表会を開く。	伝えたいことが相手に伝わるよさがわかっている。 【発】 【行】	他のグループの友達に伝えるために、何を伝えるか、どのような方法で伝えるかについて、考えながらまとめている。 【発】 【行】	体験したことを知らせたいという意欲をもって、話し合いや表現活動に取り組んでいる。 【発】 【行】
19 ～ 21	まちの人にも つたえよう	伝えたいことや伝え方を選んで、多様な伝え方があることに気づき、相手や目的に合わせて、発表会の計画を立てることができるようにする。	○発表会の計画を立てる。 ○各グループでどのように表現するか話し合う。 ○発表の準備や練習をし、発表方法の改善をする。 ○招待状を作成して届けたり、ポスターを作って貼らせてもらったりする。	相手や目的に応じて、多様な伝え方があることに気付いている。 【発】 【作】	何を伝えるかを考え、伝えたいことや伝え方を選んでいく。 【発】 【行】 【作】	相手や目的に合わせて、発表会の計画を立てようとしている。 【発】 【行】
22 ～ 24	えがお いっぱい はっぴ ょう会	適切な言葉遣いで工夫して伝え、自分のことや伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさがわかり、相手の反応や状況に合わせて、伝えたいことや気持ちを表すことができるようにする。	○発表会の内容を、招待した人たちに説明する。 ○探検して見つけたことやわかったことを協力して表現する。 ○ほかのグループの発表を見て、質問したり、感想を述べたりする。 ○招待したまちの人から感想をもらって交流をする。 ○交流には ICT 機器などを使った方法もある。 ○発表会を振り返り、感想をカードに書く。	・自分のことや伝えたいことが相手に伝わるよさや楽しさがわかっている。 ・伝える際に、適切な挨拶や言葉遣いをしている。 【発】 【行】	相手の反応を確かめながら、伝え方を工夫している。 【発】 【行】	相手の反応や状況に合わせて、多様な方法で伝えたいことや気持ちを表そうとしている。 【発】 【行】

25 27	ありがとうをつたえよう	学習を振り返り、お世話になった相手のことを思い浮かべながら伝え方を工夫し、自分の気持ちを伝えるうれしさに気づき、多様な方法で、感謝の気持ちを表すことができるようにする。	○まち探検でお世話になった方にお礼を伝えることや、わかったことを身近な人たちに伝えることを話し合う。 ○手紙や感謝状、ポスターなど、グループごとに方法を決めて書き、届ける。	自分の気持ちが相手に伝わることのうれしさに気付いている。 【行】 【作】	これまでの体験をもとに、相手のことを思い浮かべながら、伝え方を工夫している。 【作】	多様な方法で、感謝の気持ちを表そうとしている。 【行】 【作】
28	何をかんじたかな	学習を振り返り、地域の人々や公共施設の利用などが、自分たちの生活を豊かに楽しくしていることを実感し、地域や多様な人々との関わりを自ら築いていこうとしている。	○仕事の大変さや楽しさ、仕事をしている人たちの思いなどについて話し合う。 ○働く人たちの笑顔の秘密について予想と比べたり話し合ったりする。 ○大人になったらしてみたい仕事やなりたい職業について伝え合う。 ■学習を振り返って、自己評価をする（わたしが見つけたえがおのひみつ/ぐんぐんはしご）。 ★まち探検で体験したことを家の人に伝えたり、一緒に体験先を訪ねたりする。	地域の親しみを感じる人々や愛着のある場所、公共施設などが、自分たちの生活を豊かに楽しくしていることに気付いている。 【発】 【行】 【作】	地域の場所や人々を自分の生活と関連付けながら、捉えている。 【発】 【行】 【作】	地域の場所や人々、公共施設への親しみや愛着をもち身近な人々と関わることのよさや楽しさを実感し、多様な人々との関わりを自ら築いていこうとしている。 【発】 【行】 【作】

【参考資料】 令和6年度版『せいかつ下 なかよし ひろがれ』年間指導計画・評価計画作成資料より

7 手立て

個別最適な学び

ICT 機器の活用：具体的に体験したことを思い出したり伝えたりしやすいように、タブレットで児童が撮影した写真を提示できるようにする。

ワークシートの活用：まだタブレット操作が難しいため、手書きでまとめができるワークシートも用意し、各自で選択できるようにする。

協働的な学び

グループでの話し合い：

- (友達と) ・全員が意欲的に参加し活動を楽しめるように、「みんなでまとめるにはどうすればよいか」という視点で、発表形式や内容を考えさせる。
紙芝居、実演、動作化、クイズ、マップ（壁新聞）、スライド
- (地域の人と) ・地域の人たちの仕事や思いなどを振り返り、自分たちが社会の中で育っていることを実感させる。
・自分たちが見つけた「えがおのひみつ」を他の人にも知らせたい、もっとえがおがふえる町にしたい、という気持ちを引き出し、今後どうするかを考えさせる。

8 本時の指導（全28時間中の第16時）

(1) 本時の目標

伝えたいことを相手に伝わるよさが分かり、意欲をもって友だちと伝え合うことができる。

(2) 本時の展開

学習活動	・指導上の留意点 ★個別最適な学び ☆協働的な学び
○前時を振り返り、めあてを確認する。	・各自が個別にまとめた内容を友達に伝えたいという意欲を基にして、発表会までの計画を立てる。 ①体験したことをグループの友達と情報交換する。 ②他のグループの友達に伝える方法を話し合う。 ③分かったことや感じたこと、考えたことなどを協力してまとめる。 ④体験発表会を開き、グループ以外の人と伝え合う。
めあて	グループの友だちと、自分の体けんをつたえ合おう。 グループ以外の人に つたえるほうほうを 話し合おう。
○グループの友達と情報交換をする。	★具体的に体験したことを思い出したり伝えたりしやすいように、児童が撮影した写真を持たせる。(タブレット・紙) ☆地域の人たちの仕事や思いなどを振り返ることで、自分たちが社会の中で育っていることを実感できるようにする。 ・体験で分かったことや気付いたことを、一項目ごとに付箋紙に書き、見せながら紹介する。
○他のグループの友達に伝え	☆全員が意欲的に参加し活動を楽しめるように、「みんなの体験を伝

る方法を話し合う。	えるにはどうすればよいか」という視点でまとめ方を考えるように伝える。 紙芝居、実演、動作化、クイズ、マップ（壁新聞）
○本時で学んだことと、次時にしたいことを考えて、振り返りを書く。 ○次時への課題をもつ。	☆自分たちが見つけた「えがおのひみつ」を他の人にも知らせたい、他のグループが見つけたひみつも知りたい、という気持ちを引き出し、発表会への意欲を高める。

（３）本時の評価

知・技：伝えたいことが相手に伝わる良さが分かっている。（発・行）

主：体験したことを知らせたいという意欲をもって、話し合いや表現活動に取り組んでいる。

（発言・行動）